

【参考】本県の4つの日本遺産

・「国境の島 壱岐・対馬・五島～古代からの架け橋～」

当初認定：平成27年度

構成自治体：長崎県（事務局）、壱岐市、対馬市、五島市、新上五島町

主な構成文化財等：

原の辻遺跡（壱岐市）、金田城跡（対馬市）、三井楽（五島市）、山王山（新上五島町）

概要（ストーリー）：

日本本土と大陸の中間に位置することから、長崎県の島は、古代よりこれらを結ぶ海上交通の要衝であり、交易・交流の拠点であった。特に朝鮮との関わりは深く、壱岐は弥生時代、海上交易で王都を築き、対馬は中世以降、朝鮮との貿易と外交実務を独占し、中継貿易の拠点や迎賓地として栄えた。その後、中継地の役割は希薄になつたが、古代住居跡や城跡、庭園等は当時の興隆を物語り、焼酎や麺類等の特産品、民俗行事等にも交流の痕跡が窺える。国境の島ならではの融和と衝突を繰り返しながらも、連綿と交流が続くこれらの島は、国と国、民と民の深い絆が感じられる稀有な地域である。

・「鎮守府 横須賀・吳・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～」

当初認定：平成28年度

関係自治体：佐世保市

主な構成文化財：旧佐世保無線電信所（針尾送信所）施設、無窮洞

概要（ストーリー）：

明治期の日本は、近代国家として西欧列強に渡り合うための海防力を備えることが急務であった。このため、国家プロジェクトにより天然の良港を四つ選び軍港を築いた。静かな農漁村に人と先端技術を集積し、海軍諸機関と共に水道、鉄道などのインフラが急速に整備され、日本の近代化を推し進めた四つの軍港都市が誕生した。百年を超えた今もなお現役で稼働する施設も多く、躍動した往時の姿を残す旧軍港四市は、どこか懐かしくも逞しく、今も訪れる人々を惹きつけてやまない。

・「日本磁器のふるさと 肥前 ～百花繚乱のやきもの散歩～」

当初認定：平成 28 年度

関係自治体：長崎県（県北振興局）、佐世保市、平戸市、波佐見町

主な構成文化財：三川内の磁器製作技術（佐世保市）、中野窯跡（平戸市）

肥前波佐見陶磁器窯跡（波佐見町）

概要（ストーリー）：

陶石、燃料（山）、水（川）など窯業を営む条件が揃う自然豊かな九州北西部の地「肥前」で、陶器生産の技を活かし誕生した日本磁器。肥前の各産地では、互いに切磋琢磨しながら、個性際立つ独自の華を開かせていった。その製品は全国に流通し、我が国の暮らしの中に磁器を浸透させるとともに、海外からも賞賛された。

今でも、その技術を受け継ぎ特色あるやきものが生み出される「肥前」。青空に向かってそびえる窯元の煙突やトンバイ塀は脈々と続く窯業の営みを物語る。

この地は、歴史と伝統が培った技と美、景観を五感で感じることのできる磁器のふるさとである。

・「砂糖文化を広めた長崎街道 ～シュガーロード～」

当初認定：令和 2 年度認定

関係自治体：長崎市、諫早市、大村市

主な構成文化財：カステラ（長崎市）、諫早おこし（諫早市）、大村寿司（大村市）

概要（ストーリー）：

室町時代末頃から江戸時代、西洋や中国との貿易で日本に流入した砂糖は、日本の人々の食生活に大きな影響を与えた。なかでも、海外貿易の窓口であった長崎と小倉を繋ぐ長崎街道沿いの地域には、砂糖や外国由来の菓子が多く流入し、独特の食文化が花開いた。現在でも、宿場町をはじめ、当時の長崎街道を偲ばせる景観とともに、個性豊かな菓子が残されている。

輸入砂糖や菓子と関わりの深い長崎街道「シュガーロード」を辿ると、長崎街道の歴史だけでなく、400 年以上もの時をかけて発展し続ける砂糖や菓子の文化に触れることができる。